



RELAY[®] G70 / G75

アドバンスド ガイド ▶

本ガイドではLine 6 Relay G70 & G75 ワイヤレスシステムの特徴や機能を
詳しくご紹介します

目次

クイックスタート	1-1
クイックスタート手順	1-1
工場出荷時の初期設定	1-2
システム概要	2-1
主な特徴	2-1
同梱品リスト	2-2
おすすめのアクセサリ	2-2
Relay TB516 G トランスミッター	3-1
トランスミッターの外観	3-1
Relay G70 & G75 レシーバー	4-1
レシーバーの外観	4-1
ホーム画面	4-3
How To...	5-1
シーンについて	5-1
エディットモード	5-1
シーンパラメータの編集	5-1
シーンの名称変更	5-3
チャンネル選択(マニュアル、オートスキャン)	5-3
ケーブルトーンの設定	5-4
レシーバーアウトプット A, B, Cの設定	5-4
各シーンでのゲイン設定	5-5
スイッチカラーリングの変更	5-5
シーンの削除	5-6
シーンの追加	5-6
レシーバーのLCDスクリーンの明るさ設定	5-7
Aux インプットの設定	5-7
レシーバー及びトランスミッターの詳細情報の確認	5-8
ファクトリーリセットの実行	5-8

レシーバーへのトランスミッターの追加	5-9
オートスキャン機能を使用したトランスミッターの追加方法	5-9
マニュアルでのトランスミッターの追加方法	5-10
1つのトランスミッターに対するシーンの追加	5-11
1つのトランスミッターを複数の楽器で使用する場合	5-11
フットスイッチ/ セレクトボタンでのコントロール	5-12
カラー LEDリング	5-12
内蔵チューナーとチューナーアウトプットの使用方法	5-13
チューナーアウトプットの使用方法	5-13
トランスミッターの詳細情報(Relay TB516 G)	5-13
ロック機構によるギターケーブルの接続	5-13
通常ギターケーブルのご使用について	5-14
トランスミッター・ユーザーインターフェイス	5-14
トランスミッターの電池	5-15
バッテリー状態の表示	5-15
ファームウェアアップデートのインストール	5-15
最適な運用方法と接続例	6-1
クアッドインターナルアンテナアレイについて	6-1
電波の干渉要因	6-1
G70のペダルボードへの設置について	6-3
各トランスミッターのチャンネル設定	6-4
接続例	6-4
基本的なG70/75の1つの楽器での使用例	6-4
G70 エレクトリックギター + アコースティックギター接続	6-5
G75 ベースギターからアンプ + PAに接続	6-5
G70 アコースティックギターをダイレクトにPA + パワードモニターに接続	6-6
G70 エレクトリックギターを2台のアンプ&アコースティックギターをPAに接続	6-6
さらに情報が必要な場合	7-1
関連資料	7-1
ソフトウェアダウンロード	7-1
サポート	7-1

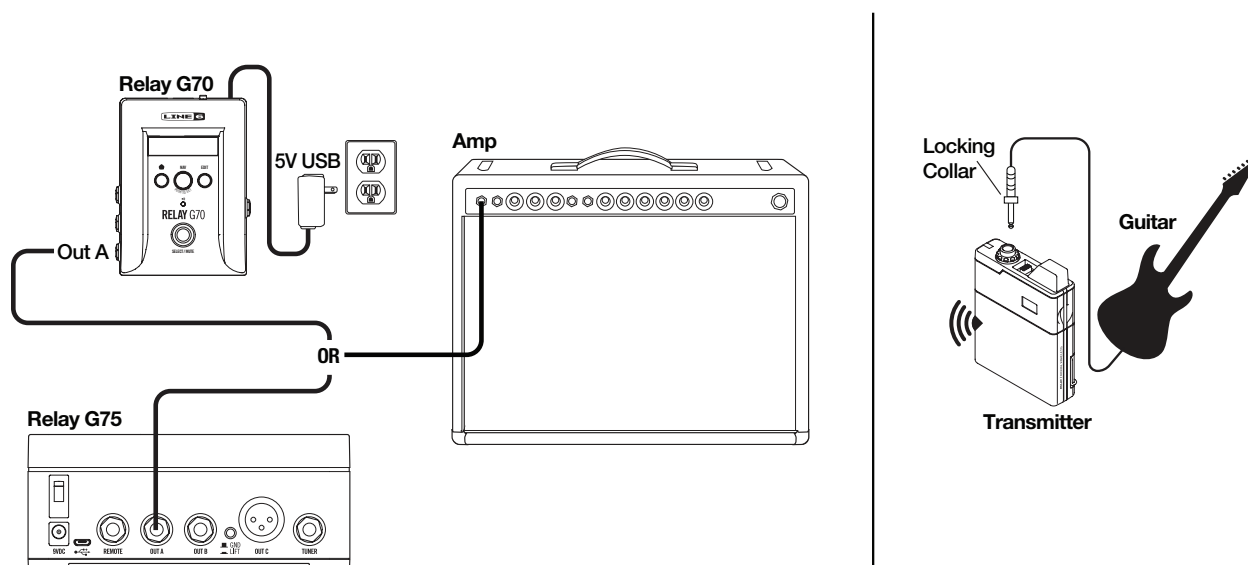
付録: 製品仕様	A-1
Relay G70 & G75 システム仕様.....	A-1
Relay TB516 G トランスミッター仕様.....	A-1
Relay G70 & G 75 レシーバー仕様.....	A-2
Relay G70 レシーバー寸法.....	A-3
Relay G75 レシーバー寸法.....	A-4

Line 6 Relay, POD, Variax および James Tyler Variax は Line 6, Incの登録商標です。その他の全ての製品名や商標名、アーティスト名は各社が保有しており、Line 6との提携関係はありません。Mac®はアメリカ及びその他の国で登録されているApple, Incの登録商標です。Windows®はアメリカ及びその他の国で登録されているMicrosoft Corporationの登録商標です。

Copyright © 2015 Line 6, Inc.

クイックスタート

最初にマニュアルをよく読んでからご使用いただくことをお勧めしますが、すぐにLine 6 Relay®をご使用になりたい場合は、下記の手順に従って下さい。



クイックスタート接続例

クイックスタート手順

1. レシーバー、トランスミッター、電源ケーブルとギターケーブルをパッケージから取り出してください。
2. 本体の最上部が金属、コンピューター、携帯電話やタブレットに電波を遮られない位置にレシーバーを設置します。レシーバーから2メートル以内にお使いになるRelay TB516 G以外のトランスミッターを置かないでください。
3. 同梱されているUSBケーブルを5VパワーサプライからレシーバーのマイクロUSBコネクタに接続してからコンセントに接続してください。
4. レシーバーの**Output A** (1/4)からアンプのインプットやエフェクターなどに接続してください。
5. レシーバー背面の電源スイッチをOnにしてください。
6. 新品、もしくはフル充電の単3電池を2本トランスミッターに装着してください。
7. 同梱されているロッキングギターケーブルをトランスミッターに装着し、ロッキングカラーを回して固定してください。(固定するだけでするので締めすぎないでください)
8. もう一方のプラグをギターに接続してください。
9. トランスミッターの電源を入れ、緑色に点灯することを確認してから演奏を始めてワイヤレスのもたらず自由をお楽しみください。(赤や黄色の場合は電池残量が少なくなっています。)

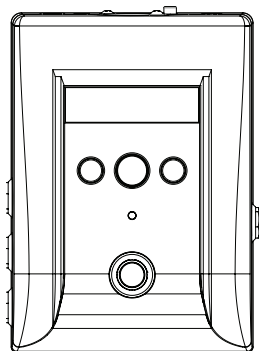
工場出荷時の設定

工場出荷時のレシーバーとトランスミッターの設定は下記のように設定されており、箱から取り出してすぐにご使用いただけるようになっています。この後の各章ではセッティングのカスタマイズや新しい”シーン”の追加に関してご説明します。

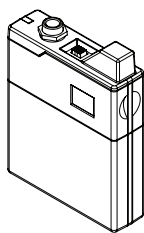
- **Name:** SCENE1
- **Channel:** 1
- **Cable Tone:** OFF
- **Active Output:** A+C (アウトプットAとCがアクティブな状態)
- **Gain:** 0dB (0 = ユニティーゲイン)
- **Switch Color:** Green
- **Add Scene:** CH. 1
- **LCD Brightness:** High
- **Aux In:** Always On

システム概要

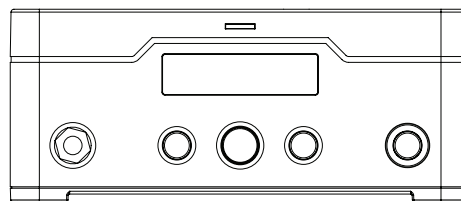
Relay G70/G75 アドバンスド ガイドでは、より詳細にLine 6 Relay G70/G75の特徴や機能を紹介します。<http://line6.jp/products/relay/resource.html>にアクセスしてRelay G70/G75 取扱説明書を含む最新の資料を確認してください。



Relay G70 レシーバー
RS516



Relay TB516 G
ギタートランスミッター
TB516G



Relay G75 レシーバー
RT516

主な特徴

- 最大16チャンネル、24-bit非圧縮の妥協のないサウンド
- 世界中のアーティストのツアーで使用される実績のある業界トップクラスの音質
- 複数のトランスミッターを使用することでギターの持ち替えが簡単
- クラス最高のダイナミックレンジと1.5ms未満のレイテンシー
- レシーバーから最大60mでノイズフリー、フルレンジ使用が可能
- ロック機構付きの1/4"ギターインプット搭載のトランスミッターは特別なケーブルは不要
トランスミッターのみの追加購入も可能
- レシーバーは、ケーブルのルーティングやユーザーインターフェースに高い汎用性を実現するため、コンパクトなストンプボックス・タイプとアンプトップ・タイプから選択可能
- 選択可能な2つの1/4"ギターアウトプットはOn/Off、ゲイン、ケーブルトーンを各ギターやシーンごとに設定可能
- 外部チューナーに接続するための専用の1/4"アウトプットジャックを装備
- 120dbを超えるダイナミックレンジと24ビットの高精度の音質、およびワイヤレスの自由を実現する画期的なXLRダイレクトアウトプット
- さらなる汎用性を実現するために、ギターをケーブルで接続することも可能な1/4"Auxインプットジャックをレシーバーに装備
- アルカリ単3電池、もしくは充電式単3電池を使用(電池の混在はおすすめしません)
- 頑丈な金属製のトランスミッターとレシーバー

同梱品リスト

- Relay TB516 G ギタートランスミッター
- ストンプタイプ レシーバー (G70のみ)
- アンブトップタイプ レシーバー (G75のみ)
- カラーロック付きTSストレート 1/4"ストレートギターケーブル(60cm)
- USB-A to Micro-USB ケーブル
- ユニバーサルUSBパワーサプライ(5V-1A)
- 6色のトランスミッター識別用の6角ナット(Green, Blue, Orange, Purple, Aqua, White: 各1つずつ)
- 単3電池×2本
- 取扱説明書と保証書

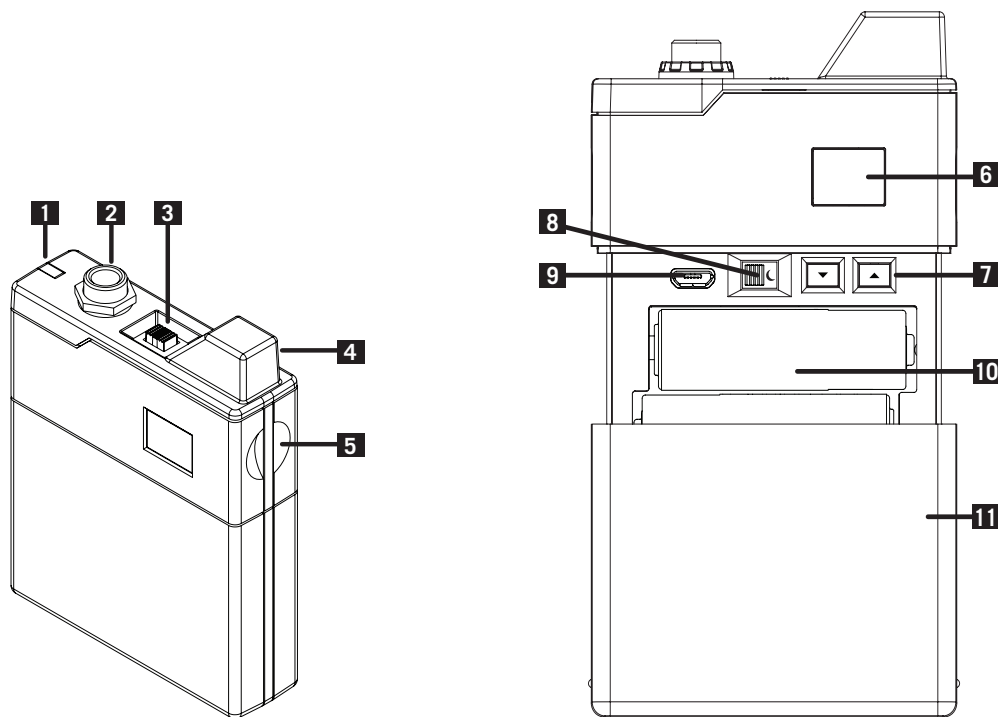
おすすめのアクセサリ(別売り)

- 複数のギターで使用するためのTB516 G トランスミッター
- 9VDC電源で使いたい場合にLine 6 DC-1gかDC-3gアダプタがご使用いただけます。
- ロッキング機構を装備したL-Sプラグのギターケーブル
- ロッキング機構付きギターケーブルの予備
- Line 6製の専用トランスミッターポーチ

RELAY TB516 G トランスミッター

この章ではLine 6 Relay® TB516 G ワイヤレストランスミッターに関して詳細にご説明します。TB 516 G はRelay G70もしくはRelay G75とともに同梱されています。単品購入も可能なため、必要とする楽器と同数のトランスミッターを用意することで、ワイヤレス・システムを拡張することができます。["How to..."](#)の章をチェックしていただき、Relayレシーバーとご使用になるための設定をご確認ください。

トランスミッターの外観



The Relay TB516 G トランスミッター

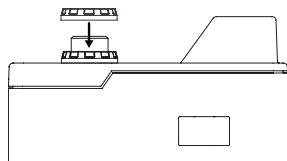
1. バッテリーステータス - このLEDは電源を入れた際に、バッテリー残量が1時間以上残っていると緑色に点灯します。黄色の場合は残り1時間未満、赤色の場合は残り30分未満を表しています。

Note: バッテリーの残り時間は2本のアルカリ単3電池で計測しています。アルカリ電池以外の電池をご使用の場合は実際の使用時間が変化する場合があります。

2. ギターインプット - 同梱されているケーブルを接続します。ケーブルをロックするにはロッキング機構付きのプラグを接続し、カラーをトランスミッターのインプットジャックのネジ山に対して優しく回してロックしてください。締めすぎないようにご注意ください。ロックを外すには時計と反対周りにカラーを回して緩めてから引き抜いてください。

***Note:** 通常の $\frac{1}{4}$ "ギターケーブルもご使用になれます。

もし複数のトランスミッターを所有されている場合は、同梱されている色分けされた六角ナットを装着することで、それぞれのトランスミッターを一目で見分けることができます。レシーバーのシーンごとにLEDのカラーをご使用になるトランスミッターのカラーに合わせて設定できます。P5-5”スイッチカラーリングの変更”参照



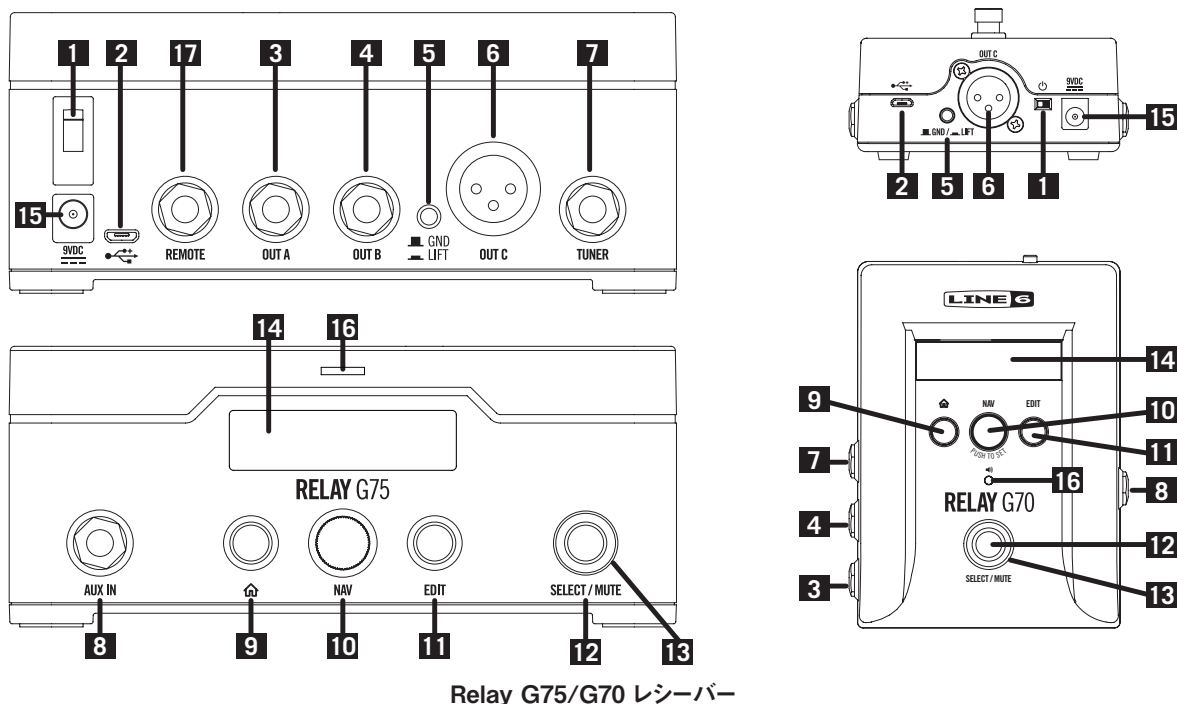
黒い六角ナットを外して色分けされた六角ナットを装着してください

3. **電源 On/Off** – バッテリーを装着した状態で電源を入れてください。トランスミッターは約1秒で自動的にレシーバーと同期します。
4. **アンテナ** – 内蔵アンテナは通常使用においてダメージを受けたり変形しないようになっています。最適な利用環境のために、アンテナを金属素材の衣類やアクセサリで覆ったり、人体に直接装着しないようにして下さい。ズボンの前面のポケットに装着すると電波が影響を受ける場合があるので、必ず後ろのポケットやベルト、ストラップなどに装着してください。
5. **バッテリードアの開閉** – この部分を両側から押すことでバッテリードアが開閉できます。
(下の11の項もご参照ください)
6. **チャンネルディスプレイ** – チャンネルセレクトボタンを押すと1-16までのチャンネルが表示します。
(下の7の項もご参照ください)
7. **チャンネルセレクト** – バッテリードア(#11)をスライドさせるとボタンが出てきます。▲や▼を一度押すとチャンネルナンバーが表示されます。この2つのボタンを押してチャンネルを選択してください。チャンネルを選択するとチャンネルナンバーが**チャンネルディスプレイ**(#6)で2秒点滅し、チャンネル選択が完了したことを表します。
***Note:** 使用している他のトランスミッターなどと干渉しないように、チャンネルナンバーを選択している間に瞬時にトランスミッターの設定を変更しません。
8. **オートスリープスイッチ** – バッテリードア(#11)をスライドさせてスイッチを出します。スイッチを○の位置に設定することで**オートスリープ**機能が使用できます。この機能を使用中は、2分以上全く動きや音声を検知しない場合に自動的にスリープ/スタンバイモードに入ります。これによってギターのボリュームを絞ってスタンドに置いた際にトランスミッターの電源を切らなくても電池の消費を抑えることができます。
9. **Micro USB** – このUSBコネクタは将来的な本体のファームウェアアップデートが必要になった際に使用します。最新のファームウェアはこちらでご確認ください。<http://jp.line6.com/software/>
10. **バッテリーボックス** – ご使用になるには単三電池が2本必要です。.
11. **バッテリードア** – このスライドは2段階で開きます。1段階目は**チャンネルセレクト**(#7)や**オートスリープスイッチ**(#8)、2段階目で完全にオープンになりバッテリーの交換が行えます。

RELAY G70 & G75 レシーバー

この章ではLine 6 Relay® G70とG75レシーバーの外観や機能を詳しくご紹介します。

レシーバーの外観



Relay G75/G70 レシーバー

- 1. 電源:** このスイッチでレシーバーの電源をOn/Offします。
- 2. Micro USB:** 同梱されているACアダプタとケーブルを使用してDC(5VDC/1A)を供給します。また、ファームウェアアップデートの際にも使用します。
- 3. Out A:** 1/4"アンバランス端子、ギター/ベースをアンプやエフェクターに接続する際に最適なアウトプットです。
- 4. Out B:** Out Aと同様に1/4"アンバランス端子アウトプットですが、シーンの設定でOUT Aに加えてもう一台のアンプや単独でモニターシステムに送るように設定できます。
- 5. Ground Lift:** グラウンドノイズを改善したい場合にこのスイッチを切り替えることで、XLR Out Cのpin1の"Ground lift"を切り替えます。
- 6. Out C:** PAや他のXLRインプット搭載機器に接続する際に使用するXLR端子です。(グラウンドリフト付き) シーンによってOut AやOut Bとは異なる設定が行えます。
- 7. チューナーアウト:** ギター信号レベルの1/4"アウトプットです。チューナーアウトは外部チューナーを接続するのに特化した端子なので常に有効になっていて、シーンの設定でミュートすることはできません。なお、チューナーはRelayレシーバーにも内蔵されています。P.5-13参照

8. **Aux In:** Auxインプットはもう一本のギターを接続しっぱなしにしたり、トランスミッターを忘れてたり電池残量が不安な場合の安全策としてケーブルを使用したい場合に便利な端子です。初期状態ではグローバル設定で**Aux in**は常に有効になっています。このモードでは、各シーンに設定されたトランスミッターがOffの場合や、Aux Inがチャンネルインプットに設定されている場合にAux Inが有効になります。グローバル設定で**"Scene only"**に設定している場合、**Aux In**はシーンでチャンネルインプットに設定した場合のみ有効になります。
9. **ホームボタン:** このボタンを押すことでホーム画面を表示します。P.4-3"ホームスクリーン"参照
10. **Nav/Select エンコーダー:** メインのコントロールつまみです。エンコーダーノブを回すと選択、押すことで決定します。ホームスクリーンが表示されている場合はエンコーダーを回すことで作成したシーンの切り替えが行えます。エンコーダーを押してシーンを有効にします。P.5-1"エディットモード"を参照してパラメータの設定変更や表示方法をご確認ください。
11. **Editボタン:** このボタンを押すことでシーンやインプットのパラメータ変更が行えるエディットモードにアクセスします。P5-1"エディットモード"参照。
12. **Select/Muteスイッチ:** このスイッチ(G70はフットスイッチ、G75は前面のボタン)を押すと順番にシーンが切り替わります。2秒以上長押しすると全てのアウトプットがミュートされ内蔵チューナーが起動します。
Note: 内蔵チューナーはチューナーアウトプットに何も接続されていない場合のみご使用になれます。
13. **スイッチカラーリング:** **Select/Mute**スイッチの周りのLEDリングのカラーはユーザーが設定でき、どのトランスミッターがアクティブになっているかを視認できます。トランスミッターの詳細はP.3-1参照


カラーリングがしっかりと点灯し続けている場合はRFシグナルは正常で、ゆっくり明滅している場合はシグナルが弱いということを表しています。点滅している場合はいくつかの状態を表しています。詳しくはP5-1"エディットモード"参照
14. **LCDディスプレイ:** この単色LCDはワイヤレス設定を表示します。ホームスクリーンでは有効なトランスミッターチャンネルやインプット、アウトプットルーティングやバッテリー残量を表示します。エディットモードの画面ではケーブルトーン、ゲインや他の設定を行えます。
15. **9VDC インプット:** DCアダプタ (9VDC 500mA DC) 用インプット
Note: 互換性のあるLine 6 DC-1g もしくはDC-3g はお近くのLine 6取り扱い店にてお求めください。
16. **Audio LED:** オーディオ信号が入力された際に緑色に点灯します。赤色に点灯した場合は信号が大きすぎてクリップしています。Audio LEDはレシーバーがチューナーモードの時にも使用され、赤色に点灯している場合はピッチが高いか低い場合、緑色の場合はチューニングしたいピッチから±3セント内であることを表しています。(P5-13 内蔵チューナーとチューナー・アウトプットの使用方法参照)
17. **Remote (G75 のみ):** G70のようにフットスイッチでシーンを切り替えたい場合は、モメンタリーのフットスイッチ*を接続してください。

*オープン/クローズ両方のフットスイッチで動作します。リモートジャックにフットスイッチを接続すると自動的にフットスイッチを検出し極性を判断します。

ホーム画面

前の項でも述べた通り、ホームボタンを押すことですぐにLCDにホームスクリーンを表示できます。このスクリーンはワイヤレスの設定や様々な重要な表示を行う"ダッシュボード"として機能します。



チャンネルナンバー: 現在使用しているチャンネルナンバー(1-16)を表示します。もしくは、表示しているシーンでAux Inを設定している場合は、インプットジャック  アイコンがここに表示されます。

RF シグナルインジケータ: 表示されているチャンネルがトランスミッターからの信号を検出した場合にチャンネルナンバーの上に波型のアイコンが表示されます。RFシグナルを検出していなかったり、**Aux In**を使用している場合は表示されません。

シーン名: 現在使用しているシーン名(変更可能)を表示します。(P.5-3"シーンの名称変更"参照)

バッテリー残量: トランスミッターのバッテリーの残り時間をおおよそ15分単位で表示します。**Aux In**を使用している場合には何も表示されず、トランスミッターとワイヤレス接続されていない場合には**NO TX!**の警告が表示されます。

アウトプットルーティング: 使用しているレシーバーのアウトプットを表示します。**(A, B, C, A+B, A+C, B+C, A+B+C or MUTE ALL).**

How To...

この章ではLine 6 Relay レシーバーとトランスミッターの設定方法を説明するだけでなく、この新しいワイヤレスシステムを最大限活用するための役立つヒントや機能をご紹介します。

シーンについて

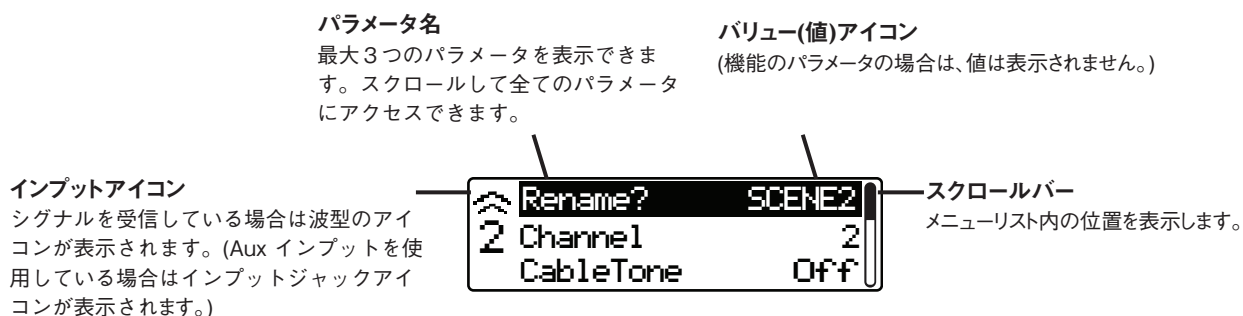
最初に、シーンの概念を理解する事がこのRelay ワイヤレスシステムをご使用になる上で重要になります。クイックスタートでも説明した通り、Relayレシーバーとトランスミッターは箱から出してすぐにお互いが使用できるように工場出荷時に設定されています。(いずれもチャンネル1に設定されています)

しかし、より多くの機能を持たせ、カスタマイズした複数のセッティングや”Scene”(以下シーン)と呼ばれるプリセットに保存できるようにすることで、さらにフレキシブルに活用いただけます。レシーバー上にいくつかのシーンを作成することで、すぐにそれらの設定をエフェクターのようにスイッチで呼び出すことができ、ご使用になる楽器やトランスミッターの切り替え変更も簡単に行えるようになります、その都度シグナルのルーティングや送り先の変更、異なるゲインやケーブルトーンの設定がスイッチを踏むだけでも呼び出せるようになるのです。

以降の詳細なシーンの作成方法や使用方法をご確認いただき、あなたのパフォーマンスに最適なRelayの設定に変更してください。

エディットモード

今選択されているシーンの各パラメータを変更するには、エディットモードに入る必要があります。また、エディットモードに入っている間は、**Select/Mute**フットスイッチ(G70)またはボタン(G75)を押し続けることで保存されているシーンが順番に切り替わり、ホーム画面に戻らなくてもすぐに他のシーンのパラメータにアクセスできます。



エディットモード - パラメータのエディット




シーン パラメータの編集

- EDITボタンを押すことでエディットモードに入ります。
- エディットモードに入り、**Nav/Select**エンコーダーノブを回してエディットしたいパラメータを選択し反転表示させます。
- エンコーダーを押して、そのパラメーターを変更できる状態にします。
- エンコーダーを回して、設定を変更します。


- エンコーダーを押すと設定変更が決定されます。キャンセルしたい場合はEDITボタンを押してください。
- 同じシーン内で他のパラメータも変更したい場合は、上記の手順を繰り返してください。
- 終了する場合はHomeボタンを押してエディットモードから出ること、自動的にそのシーンに設定が保存されます。

Tip! エディットモードで操作している時に、**Select/Mute**ボタンを押すと他のシーンに切り替わるので、ホーム画面に戻る必要がありません。

エディットモードで選択されたパラメータによっては、画面左側の記号の表示が変更になる場合があります。

- チャンネル番号やAUXインプットが表示されている場合は、このシーンでは表示されているインプット設定のみが適用されていることを表しています。
- マークは、新しいシーンが作成されることを表しています。
- が表示されるとグローバルセッティング、すなわち全てのシーンやインプットに影響する設定を意味しています。

変更可能なパラメータ

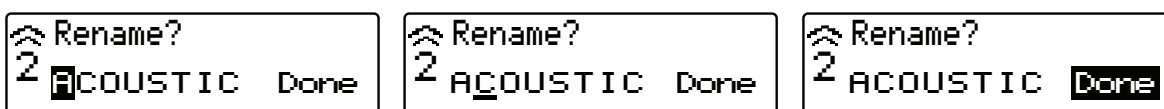
タイプ	パラメータ	値	初期設定
Sceneごとに Ch. 1-16もしくは Aux in 	Rename?	最大8文字	エディットモードに入った時に最初のシーンは自動的に"SCENE 1"と設定されています。
	Channel	1 - 16, AUX, SCAN	1
	Cable Tone (in feet)	Off, 3', 5', 10', 15', 20', 25', 30', 40', 50', 60', 70', 80', 90', 100'	Off
	Cable Tone (metric)	Off, 1, 1.5, 3, 5, 6, 8, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27, 30 Meters	Off
	Output	A, B, C, A+B, A+C, B+C, A+B+C, Mute All (Tuner Outは常にonです。)	A+C
	Gain	マイナス18dbからプラス12dbまで 1db単位	0dB (ユニティ)
	Scene Select Switch Color	Green, Blue, Orange, Purple, Aqua, White	Green
	Remove (Scene Name)?	Cancel, OK	Cancel
Add 	Add Scene	CH. 1 - CH. 16, AUX, AUTO	新しいシーンのチャンネルはエディットモードでシーンを作成する時に設定します。
Global 	LCD Brightness	Low, High	High
	Aux In	Always On, Scene Only	Always On(常にオン)
	Info?	レシーバーのファームウェアバージョンの表示(トランスミッター使用時はトランスミッターのバージョンも表示)	
	Factory Reset?	Cancel, OK	Cancel

シーンの名称変更

初期設定で表示されているシーンの名称は、**エディットモード**で変更できます。

変更方法は以下の手順です。

- **EDIT** ボタンを押して**エディットモード**に入ります。
- **"Rename?"**が表示されるまで**Nav/Select**エンコーダーを回し、押して決定します。
- 変更したい文字にカーソルを合わせ、エンコーダーを押すことで文字の変更が行えるようになります。
- エンコーダーを回して文字を選択し、押して決定します。
- 使用可能な文字は、**A-Z**(大文字のみ)、**0-9**、**-+=!@#%&*()[]?;:”,<>/**
- 終了する場合は**"Done"**が表示されるまでエンコーダーを回し、押して確定してください。画面が**エディットモード**に戻り、新しい名前が表示されます。



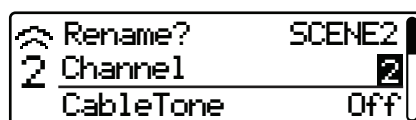
シーンの名称変更

チャンネル選択 (マニュアル、オートスキャン)

"Channel"パラメータはトランスミッターからのRFシグナルを受信するチャンネルを設定します。

初期状態ではG70/G75レシーバーとTB516トランスミッターはチャンネル1に設定されており、別途チャンネル設定の必要なくご使用になれます。もしチャンネル1が他の電波の影響を受けていると考えられる場合は、レシーバーのこのパラメータを他のチャンネルに変更し、トランスミッター側も同じチャンネルに設定してください。

レシーバーのAUX入力を使用する場合は、AUXを選択します。



チャンネル設定

レシーバーチャンネルの選択方法は、マニュアルおよびオートスキャンの2種類があります。以下の手順をご確認ください。

Note: G70/75レシーバーは、異なるチャンネルに設定された複数のトランスミッターを切り替えながらご使用になれます。詳細は**P.5-9**レシーバーへのトランスミッターの追加をご参照ください。

- **エディットモード**に入り、**Nav/Select**エンコーダーを回して**"Channel"**を選択し、押して決定します。
- **マニュアルで設定する場合:** エンコーダーを回してチャンネルを選択し、エンコーダーを押して決定してください。
- **オートスキャンで設定する場合:** 全てのチャンネルをスキャンできるよう、スキャンする前にトランスミッターの電源を切った状態にしておきます。

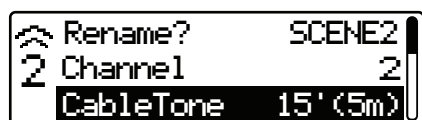
- 同じバンドのメンバーが2.4GHz帯を使用する機器をご使用の場合は、かならずその機器の電源を入れた状態でオートスキャン機能を使用してください。これによって全てのトランスミッターが使用しているチャンネルを検出し、自動的に空いているチャンネルを選択します。
- エンコーダーを**AUTO**が表示するまで回し、エンコーダーボタンを押します。レシーバーは電波状況をスキャンして最適なチャンネルを決定し、そのチャンネルを設定するかどうかの確認画面を表示します。

ケーブルトーンの設定

他のワイヤレスシステムと異なり、Relayは信号を圧縮しないので常にフルレンジで広いダイナミックレンジを実現します。そのため、これまでギターケーブルを使用してきたギタリストはRelayのサウンドを「ブライト（明るい）」と感じかも知れません。

ケーブルトーンはギターケーブル特有のナチュラルな高音域の変化（ロールオフ）を再現し、さらに3フィートから100フィートまでのケーブルの長さを選択できます。この設定は各シーン単位で保存できます。

- **エディットモード**に入り、**Nav/Select**エンコーダーを回して**"CableTone"**を選択し、押して決定します。
- **Off**もしくは**0**から変更して好きな長さを選択してください。（ケーブルの長さはフィートとメートルで表示されます）ケーブルが長くなればなるほど音色への影響が大きくなります。
- **Nav/Select**エンコーダーを押してケーブルの長さを決定してください



エディットモード - ケーブルトーンパラメータ選択

レシーバーアウトプットA、B、Cの設定

Relayレシーバーには3つのアウトプットが装備されているので、好きなルーティングを作成でき、シーンごとに保存できます。どのシーンでも1つ、もしくは3つの中からあらゆるアウトプットの組み合わせを使用できます。

セッティング例として、アコースティックギターを使用するシーンが必要な場合、**Output C(XLR)**を選択することで直接PAのミキサーなどに信号を送ることができます。他のシーンでエレクトリックギターを使用する場合には、**Output A(1/4")**を設定することでエフェクターやアンプに接続できます。さらに**Output B(1/4")**を同時使用すると、もう一つのアンプに同じ信号を同時に送ることができます。もし、複数のトランスミッターをお持ちの場合は、トランスミッターごとに異なるアウトプットの設定をシーンに設定しておけば、より多彩なケースでご使用いただけます。（詳細はp.6-4接続ダイアグラム例をご参照ください）

シーンごとのアウトプット設定は以下の通りです。

- **エディットモード**に入り、**Nav/Select**エンコーダーを回して**"Output"**を選択し、押して決定します。
- そのシーンで使用したいアウトプット(**A,B,C**,もしくはそれらの組み合わせ)を選択してください。また、**"MUTE"**を選択した場合は全てのアウトプットがミュート(消音)されます。（この機能は楽器を持ち替えるためにケーブルを抜く必要がある場合や、演奏中にトランスミッターを他の楽器に装着することが必要な場合などに非常に有効です）

- Nav/Selectエンコーダーを使用して選択を確定させてください。



エディットモード - アウトプット設定

各シーンでのゲイン設定

シーンごとにGainのパラメータで-18dbから+12dbまでレベル調節を行えます。

この機能は異なる楽器を使用する際のレベル調整に使用できるだけでなく、アウトプットに接続した異なる機器(エフェクターやアンプ、ラックなどのラインレベルの機器)に対してレベルを最適化する場合や、ギターソコなどで有効な最大+12dbのブースト用のパッチとしても使用できます。シーンごとのGain設定は以下の手順です。

- エディットモードに入り、Nav/Selectエンコーダーで"Gain"を選択、押して決定してください。
- エンコーダーノブを回して、レベルを調整してください。
- Nav/Selectエンコーダーを押して設定を決定させてください。



エディットモード - ゲインパラメータ設定

スイッチカラーリングの変更

G70のSelect/MuteフットスイッチまたはG75のプッシュボタンの周りのカラーLEDリングの色は、ユーザーが任意に設定することができ、アクティブになっているトランスミッターを視覚的に確認しやすくすることができます。(P.3-1トランスミッターの外観参照)

LEDの色を変更する方法は以下の手順です。

- エディットモードに入り、Nav/Selectエンコーダーで"Switch Color"を選択し、押すことでもして決定します。
- エンコーダーノブを回してお好きな色を選択して下さい。
- Nav/Selectエンコーダーを押して設定を決定させてください。



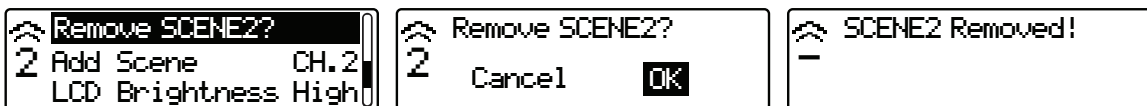
エディットモード - スイッチカラー選択

Tip! トランスミッターのインプットジャックには、初期状態では黒いプラスチックのナットがインプットジャックに装着されていますので、同梱されているカラーリングをシーンで設定した色と同じものを装着すると便利です。P.3-1参照

シーンの削除

レシーバー上のシーンは、保存されたシーンが1つしかない場合を除き削除することができます。削除方法は以下の通りです。

- **Select/Mute**フットスイッチ(G70)かボタン(G75)を押して削除したいシーンを呼び出します。
- **エディットモード**に入り、**Nav/Select**エンコーダーを回して"**RemoveXXXXX**"を選択してください。(XXXXXはシーンの名前です。)
- 削除するシーンを確認したら、エンコーダーを回して**OK**を選択してください。
- エンコーダーを押すと完了です。



エディットモード - シーンの削除

シーンの追加

シーンの追加を活用できるのは、以下のようなケースが考えられます。

- トランスミッターを他の楽器に付け替えて使用する際に各楽器に最適化した異なるパラメータ（**ゲイン、ケーブルトーン、カラーの変更等**）のセッティングを保存したい場合
- レシーバーの**AUX**インプットに特化したシーンの作成
- ライブ中に安全にケーブルの着脱を可能にするための、全てのアウトプットをミュートしたシーンの作成。
- 複数のトランスミッターを1台のレシーバーで切り替えて使用する場合に、各トランスミッター/チャンネルごとにセッティングを変更したい場合

以下は新しいシーンを作成する基本的な手順です。併せて、複数のトランスミッターの使用方法をより深く理解するために**P5-9”トランスミッターをレシーバーへ追加”**をお読みください。

- **エディットモード**に入り、“**Add Scene**”を選択して**Nav/Select**エンコーダーを押します。
- エンコーダーを回して使用したいチャンネル**1~16、AUX、AUTO**のいずれかを選択してください。
- **AUX**は**AUX**インプットに入力された信号のみを受信、**AUTO**はオートスキャン機能が自動的に空いているチャンネルを選択します。
 - **オートスキャンを使用する場合:**トランスミッターの電源をオフにし、それから**Nav/Select**エンコーダーを押してスクリーンに表示されたオススメのチャンネルを設定してください。



エディットモード - オートスキャンを使用したシーンの追加

- 手動でチャンネルやAUXインプットを選択する場合：Nav/Selectエンコーダーを押して設定してください。



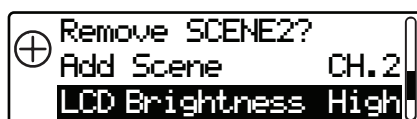
エディットモード - マニュアルスキャンを使用したシーンの追加

Note: 1つのトランスミッターのみを使用している場合は、レシーバーの全てのシーンを同じチャンネルに設定しておくことをお勧めします。

レシーバーのLCDスクリーンの明るさ設定

レシーバーのLCDスクリーンが見えづらい場合などは、以下の方法で明るさを調整して下さい。この操作はグローバル設定ですので、スクリーンに表示される内容にかかわらず全てに影響します。

- エディットモードに入り、Nav/Selectエンコーダーで”LCD Brightness”を選択して押してください。
- エンコーダーノブを回してお好みの明るさを選択してください。
- Nav/Selectエンコーダーを押して決定してください。



エディットモード - LCDの明るさ調整

AUXインプットの設定

この項ではAux Inジャックの設定を行います。この設定はグローバルセッティングですので、全てのシーンに影響します。設定方法は以下の通りです

- エディットモードに入り、Nav/Selectエンコーダーで”Aux In”を選択します。
- エンコーダーノブを回して設定したいモードを選択してください
 - **Always On** - トランスミッターを検出していない場合や、エディットモードでチャンネル設定がAUXになっている場合に、Aux Inに入力された信号が使用できます。この機能は万が一トランスミッターを忘れたり、ワイヤレスが使用できない場合などに有効です。
 - **各シーン**でプログラムされた全てのルーティングは、AUX Inの入力に置き換えられます。
 - **Scene Only** - シーンのエディットモードでチャンネル・オプションの選択がAUXになっている場合のみ、AUX Inの信号が有効になります。トランスミッターがOffの場合は、シーンのチャンネル・オプションでAUX Inを使用する設定になっている場合のみ、AUX Inの信号が有効になります。
- Nav/Selectエンコーダーを押して設定を決定してください。



エディットモード - Aux In設定(グローバル)

レシーバー及びトランスミッターの詳細情報の確認

エディットモードのInfoは、レシーバーだけでなく使用しているトランスミッターのファームウェアバージョンも表示します。

エディットモードに入っている状態で、Nav/Selectエンコーダーで”Info?”を選択しノブを押してください。レシーバーのファームウェアバージョンを表示します。



エディットモード - Infoでレシーバーのファームウェアバージョン表示

- トランスミッターとレシーバーが接続されている場合は”Next”が表示されます。”Next”を選択するとトランスミッターのファームウェアが表示され、”Close”で終了します。
 - トランスミッターの情報は、トランスミッターが選択されているシーンで有効な場合のみ表示されます。
 - 他のチャンネルで接続しているトランスミッターの情報を確認したい場合は、そのトランスミッターが設定されているシーンに変更してから実行してください。



エディットモード - 接続されたトランスミッターのファームウェアバージョン画面

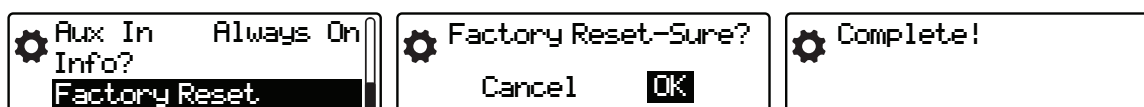
ファクトリーリセットの実行

G70/75のレシーバーを工場出荷状態の初期設定に戻したい場合は、以下の手順で行えます。

 この操作では作成されている全てのシーンやトランスミッターペアリング、パラメータが削除され初期設定に変更されます。

ファクトリーリセットの実行方法

- エディットモードでNav/Selectエンコーダーを使用して”Factory Reset”を選択し、てノブを押してください。
- エンコーダーを回してOKを選択するとリセットが実行され、Cancelを選択するとキャンセルできます。
- エンコーダーを押して実行して下さい。



エディットモード - ファクトリーリセット

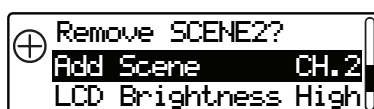
レシーバーへのトランスミッターの追加

G70/G75レシーバーは複数のトランスミッターを、スイッチまたはボタンを押すだけで切り替えて使用できます。この機能により、複数の楽器にそれぞれ専用のトランスミッターを設定すれば、演奏中でもトランスミッターのOn/Offを気にすることなく安全にすぐに楽器を持ち替えることが可能になります。

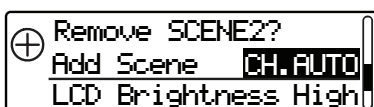
トランスミッターを追加する場合は、新しいシーンを作成し、空いているチャンネルで接続の設定を行います。G70/G75レシーバーには、オートスキャン機能とマニュアルの2つの設定方法があります。

オートスキャン機能を使用したトランスミッターの追加方法

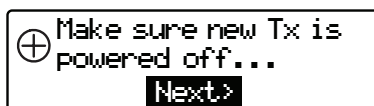
- レシーバーのEDITボタンを押してエディットモードに入ります。
- Nav/Selectエンコーダーを回して”Add Scene”を選択し、エンコーダーノブを押します。



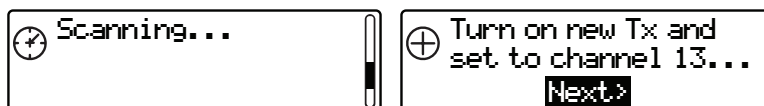
- エンコーダーを回し、CH.AUTOが表示されたら押します。



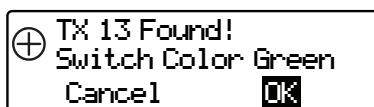
- 適切なスキャンを行うために新しく使用するトランスミッターの電源をオフにするように指示が表示されます。使用しているチャンネルを除いたチャンネルから使用可能なチャンネルを見つけるために、他の設定済みのトランスミッターの電源を入れて、**Auto-Sleep**モードをオフにしてください。



- 追加したいトランスミッターの電源をオフにした状態で、エンコーダーでNEXTを選択し、ノブを押してください。
- レシーバーが空いている最適なチャンネルを探すためにスキャンを行い、オススメのチャンネルを表示したらトランスミッターの電源を入れて、そのチャンネルに設定してください。(詳細はP.3-2トランスミッターのチャンネル設定参照)



- NEXTを選択すると、スクリーンにトランスミッターを検出したこととスイッチカラーの色を設定したことが表示されます。スイッチカラーの色は後で変更できます。(P.5-5スイッチカラーリングの変更参照)

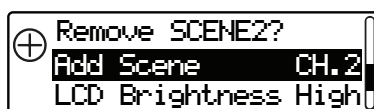


- 問題なければエンコーダーを回してOKを選択し、エンコーダーノブを押して設定を完了してください。
- 作成した新しいシーンで新たに追加されたトランスミッターを使用する設定ができました。設定をカスタマイズしたい場合は、**エディットモード**に戻って対象のシーンの設定を変更してください。(名称変更、Gain、ケーブルトーン他) P.5-1エディットモード参照

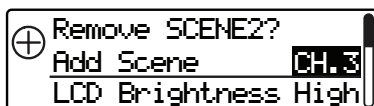
マニュアルでのトランスミッターの追加方法

この操作は複数のトランスミッターをレシーバーで使用する際、各トランスミッターをそれぞれ異なる固有のチャンネルに設定する必要がある場合に行います。
新しいトランスミッターをマニュアルで追加する方法は以下の通りです。

- レシーバーのEDITボタンを押してエディットモードに入ります。
- **Nav/Select**エンコーダーを回してメニューから**ADD SCENE**を選択して、ノブを押します。



- ノブを回して任意のチャンネルを選択します。追加するトランスミッターで設定するものと同じチャンネルを選択してください。



- **エンコーダー**を押して新しくトランスミッターを追加できたら、**HOME**ボタンを押してホーム画面に戻ります。
- トランスミッターの電源を入れて、上記の設定したシーンと同じチャンネルに設定すると、**Select/Mute**スイッチ(G70)もしくはボタン(G75)の周りの**スイッチカラーリング**が点灯します。点滅している場合はトランスミッターと接続されていないことを表しています。設定したトランスミッターとレシーバーのチャンネルが同じかどうか確認してください。
- 作成した新しいシーンで追加されたトランスミッターを使用する設定ができました。設定を変更したい場合は**エディットモード**に戻ってそのシーンの設定を変更してください。(名称変更、ゲイン、ケーブルトーン他) P.5-1“エディットモード”参照

1つのトランスミッターに対するシーンの追加

G70/G75は、スイッチもしくはボタンですぐにインプットやアウトプットを変更できます。

各シーンには、異なるインプット(チャンネル1~16、Aux In)やアウトプット(A, B, Cやそれらを同時使用する組み合わせ)の設定を保存できます。そのため、1つのトランスミッターしか使用しない場合でもパフォーマンスに応じて各項目をシーンごとに設定して使用できます。

トランスミッターに対して新しいシーンを追加する場合は、P.5-10”マニュアルでのトランスミッターの追加方法”をご参照いただき、それぞれのシーンを同じチャンネルに設定してください。

1つのトランスミッターを複数の楽器で使用する場合

Relay G70/G75は、1つのトランスミッターで複数のギターを使い分けたいユーザーにも適しています。ギターを持ち替える方法として、プレイヤーは以下のようなフレキシビリティが得られます。

- トランスミッターはレシーバー側の設定変更なく、そのまま別のギターに接続できます。これはゲインやケーブルトーン、アウトプットの設定をギターごとに設定する必要がない場合の、最もシンプルで合理的な方法です。
- 同じトランスミッターで同じチャンネルを使用する場合でも楽器ごとにシーン名、ゲインやケーブルトーンのセッティングやアウトプットを異なるものに設定できます。例えば以下のようにシーンを作成してみます。

シーン名	チャンネル	アウトプット	ゲイン	ケーブルトーン	スイッチカラー
ELECTRIC	1	A (1/4アウト、アンプに接続)	+3dB	20 feet	Yellow
MUTE1	1	All Muted			Blue
ACOUSTIC	1	C (XLRアウト、PAに接続)	0dB	None	Green
MUTE2	1	All Muted			Blue

1台のトランスミッターでエレクトリックギター、アコースティックギターを使い分ける4つのシーン作成例

- MUTE1とMUTE2のシーンは、トランスミッターを差し換える時のために無音になるように設定しています。
- Select/Muteフットスイッチ(G70)、ボタン(G75)を押すことで、レシーバー上の4つのシーンが順番に切り替わります。Electric(Output Aを使用、ギターアンプに接続)、その次にMute 1(全てのアウトプット無効)、その次にAcoustic(Output Cを使用、PAシステムに接続)、最後にMute 2(全てのアウトプット無効)、そこからもう一度スイッチを押すとElectricに戻ります。それぞれのギターごとに異なるスイッチカラーに設定(Muteシーンは同色に設定)することで、一目でどのシーンなのかを確認することができますようになります。

Note:次の項では、より詳しくフットスイッチで複数のシーンを使い分ける例を紹介しています。

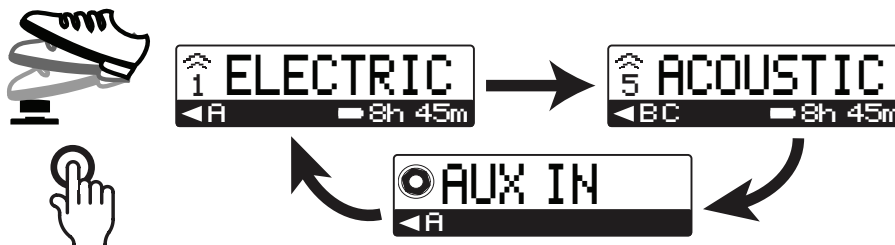
フットスイッチ/セレクトボタンでのコントロール

レシーバーのストンプ機能(G70のフットスイッチ、G75のSelect/Muteボタンを押す)とレシーバーに保存されたシーンが順番に切り替わります。必要であればG75レシーバー背面のRemoteジャックにモメンタリ（クローズドまたはオープン）のフットスイッチを接続して操作することができます。(P.4-2リモートインプット参照)

フットスイッチを押す
(G70)

もしくは

セレクト/ミュートボタン
(G75)



G70のフットスイッチ/G75の Select/Muteボタンで順番にシーンが切り替わります。

Note:エンコーダーノブを回すことでもシーンを順番に切り替えられます。使用したいシーンを選択してエンコーダーボタンを押すまではシーンのデータが呼び出されていないため表示が点滅状態となり、確定せずにシーンを探すことができます。

シーンの追加や、追加したシーンのルーティングやトランスミッターの変更はエディットモードで行えます。P.5-6”シーンの追加”を参照してください。

追加されたシーンは、作成された順番にフットスイッチで切り替わります。

Tip! エディットモードに入っている間も、フットスイッチまたはSelect/Muteボタンを押すとシーンを順番に切り替えられます。

この機能によってエディットモードから出ることなく、すぐに異なるシーンのパラメータを編集できます。

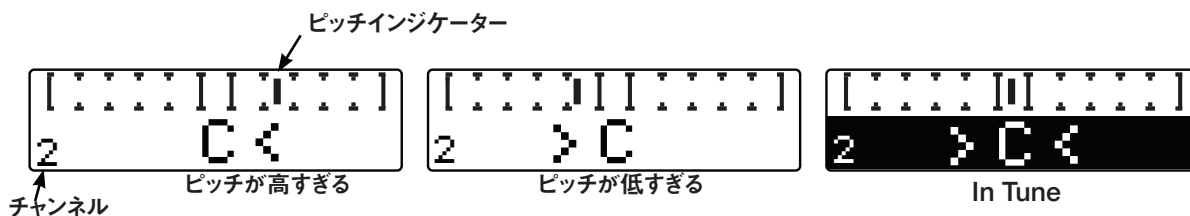
カラーLEDリング

- P.5-5で説明したように、G70のフットスイッチおよびG75のSelect/MuteボタンのLEDは複数のトランスミッターに合わせてカラーをカスタマイズできます。このLEDは、受信するワイヤレスシグナルの状態を視覚的にわかりやすくするために、いくつかの点灯パターンがあります。
 - RFシグナルの状態が良好な場合は点灯します。
 - 受信する電波が弱くなっている場合はゆっくりと点滅します。
 - ミュートされている場合は点滅し続けます。
 - トランスミッターの電池残量が1時間を切ると黄色に点滅します。
 - トランスミッターの電池残量が30分を切ると赤色に点滅します。

内蔵チューナーとチューナー・アウトプットの使用方法

レシーバーのTunerアウトプットにケーブルが接続されていない場合、**Select/Mute**フットスイッチ(G70)かボタン(G75)を2秒以上長押しすると、全てのアウトプットがミュートされ内蔵チューナーが起動します。内蔵チューナーは、現在選択されているシーンと同じチャンネルに設定されているトランスミッターかAux入力でご使用になれます。“In Tune”の状態になるまでチューニングを繰り返してください。また、現在使用しているチャンネル(もしくはAux In)がLCDスクリーンの左側に表示されます。

Tuner/Muteモードから出るには**Select/Mute**フットスイッチ/ボタンを押すか、HOMEボタンを押して下さい。



The G70/G75 内蔵チューナー

チューナー・アウトプットの使用方法



お好みのチューナーをご使用になりたい場合は、G70/G75のTunerアウトプットにそのチューナーを接続するだけでご使用いただけます。Tunerアウトプットにケーブルが接続されている場合は、**Select/Mute**フットスイッチ/ボタンを長押しするとTunerアウトプット以外の全てのアウトプットがミュートされ、レシーバーのLCDにはミュートされたスピーカーのマークが点滅します。このミュート機能により、外部チューナーを使用する際にもサウンドを鳴らすことなくチューニングが行えます。**Tuner/Mute**モードから出る場合は**Select/Mute**フットスイッチ/ボタンを押すか、**HOME**ボタンを押してください。

トランスミッターの詳細情報(Relay TB516 G)

ロック機構によるギターケーブル接続

Relay TB516 G トランスミッターは、非常にシンプルな1/4インチギター・インプットにケーブルを固定できるロック機構を採用しています。このロック機構は予期しない落下や、ケーブルが不意に引っ張られたり、引っ掛かったりしてケーブルが抜け落ちるのを防ぎます。ケーブルをロックするにはロック用カラーの付いている方を接続し、カラーがトランスミッターの入力端子側のネジ山に留まるよう、ゆっくりと回して締めていきます。ぴったり締まったら、それ以上きつく締め付ける必要はありません。ロックを外す場合は、左方向に回してから引き抜いてください。

ロック機構を使用するにはLine 6が提供するケーブルを使用する必要があります。このロックケーブルは商品に同梱されており、アクセサリとして別途購入も可能です。ギター側のプラグがL字になっているケーブルもご用意しております。お近くのお取扱店でお求めください。

通常のギターケーブルのご使用について

Relay TB516 G トランスミッターとギターの接続には一般的な1/4" to 1/4"ケーブルをご使用いただけますが、ロック機構はサポートしていません。

トランスミッター・ユーザーインターフェイス

Relay TB516 G トランスミッターは、ライブやスタジオでのご使用を考慮して素早く、簡単にご使用いただけるように設計されています。

On/Off - 正常に電池が動作している場合は電源が入ります。トランスミッターは1秒未満で自動的にレシーバーに同期するため、トランスミッター側にミュート機能は必要ありません。

チャンネル選択 - チャンネル・ディスプレイの下部にある▲アップ、▼ダウンボタンを一度押すとチャンネルナンバーが表示されます。現在選択されているチャンネルが▲アップ、▼ダウンボタンの上隣のデュアル7セグメントディスプレイに表示されますので、アップまたはダウンボタンを押してチャンネルを変更してください。チャンネルを変更すると、チャンネルナンバーが点滅して変更されたことを示します。

Note: アップ&ダウンボタンでチャンネルを選択中に他の作動中のトランスミッターのチャンネルを干渉しないようにするため、トランスミッター側でのチャンネルの変更は瞬時には反映されないようになっています。

オート・スリープ・スイッチ - 内部回路でトランスミッターをスリープ状態にするかどうかを決定します。(動きやトランスミッターからオーディオ信号を全く検知しない時の設定です。)

スイッチを☾が表示する位置にするとこの機能が使用できるようになります。(P.3-2オートスリープスイッチ参照)

オートスリープ機能が起動している場合、トランスミッターはオーディオ信号と動きを2分間検知しないと自動的にスタンバイ/スリープ・モードに入ります。この機能を使えば、毎回トランスミッターの電源を切らなくても、休憩中にギターのボリュームを下げてスタンドに乗せておくだけで電池の消耗を防ぐことができます。スタンバイ/スリープ・モードの間、いつでも通常モードに戻るようにトランスミッターは0.5秒ごとに動きをチェックしています。動きやオーディオを検知した場合2秒以内に同期します。

トランスミッターの電池

Relay TB516 G を動作させるためには2本の単3電池が必要です。

規格に準拠していれば全ての単3電池が使用可能ですが、できるだけ高品質な単3電池をご使用ください。(P.3-2バッテリーボックス参照)

電池使用のコツ

- ・ 信頼できるブランドの電池をご使用ください。
- ・ リチウム電池はより長い使用時間を実現しますが、一般的にアルカリ電池より高額になります。
- ・ 多くのプロフェッショナルは、ライブでは常に新品の電池を使用し、リハーサルで使用済みの残量の減った電池を使用します。
- ・ 充電式の電池は、経済性と利便性の両面からトランスミッターへの電源供給方法として非常に有効ですが、充電レベルに応じて容量に大小がありますので、フル充電時にANSI規格の基準に適合しているかどうかを製造元に確認してください。

バッテリー状態の表示

トランスミッター上部のバッテリーステータスLEDが緑色に点灯している場合は、トランスミッターの電源が入っていて電池残量が1時間以上ご使用になれる状態を表しています。

黄色に点滅している場合は電池残量が残り1時間より少ない状態で、赤い点滅は30分より少ない状態であることを表しています。レーザーのホームスクリーン上にも、現在のシーンで使用中のトランスミッターの電池の残り時間が表示されます。(P.4-3ホームスクリーン参照)

Note : バッテリー使用可能時間は2本の単3アルカリ電池を基準に測定しています。アルカリ電池以外の電池をご使用の場合は正確な時間が表示されでないことがあります。

ファームウェア・アップデートのインストール

Relay G70 & G75レーザーと TB516 G トランスミッターは、ファームウェアによるアップデートが可能な設計になっています。ベストな状態でご使用いただくために、定期的な更新のチェックと最新のファームウェアのインストールを強くお勧めします。ファームウェアのアップデートは**Line 6 Updater**(Win/Mac)をご使用いただくことで簡単に行えます。

Line 6 Updater(Win/Mac)をダウンロードするには、jp.line6.com/softwareにアクセスしてダウンロード&インストールしてください。Relayハードウェアのアップデートの手順は次の通りです。G70&G75だけでなくTB516 Gの手順も非常に似ています。

*ファームウェアのアップデートの際はTB516 Gの電池を外した状態で行うことをお勧めしています。

- G70/G75レシーバー、もしくはTG516 Gを、同梱のMicro-USBケーブルを使用してコンピューターPCのUSBポートと接続してから電源を入れてください。

*アップデートする機器に十分な電力を供給できるUSB2.0もしくはUSB3.0のポートが必要です。

- G70もしくはG75レシーバーをコンピューターのUSBポートと接続した状態でレシーバーの電源を入れている場合、下の図のようにレシーバーのディスプレイにはLine 6のロゴが表示され、またオーディオLEDが赤く点灯し、アップデートモードであることを示しています。もしレシーバーにホームスクリーンが表示されている場合は、コンピューターとUSBケーブルで接続した状態のままレシーバーの電源を入れなおしてください。



*Line 6アップデーターを起動しLine 6アカウントでサインインして下さい。もし、まだLine 6アカウントをお持ちでない場合はCreate Accountをクリックしてアカウントを作成し、改めてアップデーターでサインインして下さい。



Line 6アップデーター - ログイン画面

アップデーターは接続されているRelayを検出します。検出されたRelayを選択すると更新可能なファームウェアのバージョンが表示されます。もしご使用中のRelayのファームウェアより新しいバージョンが配布されている場合は最新のバージョンを選択し、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

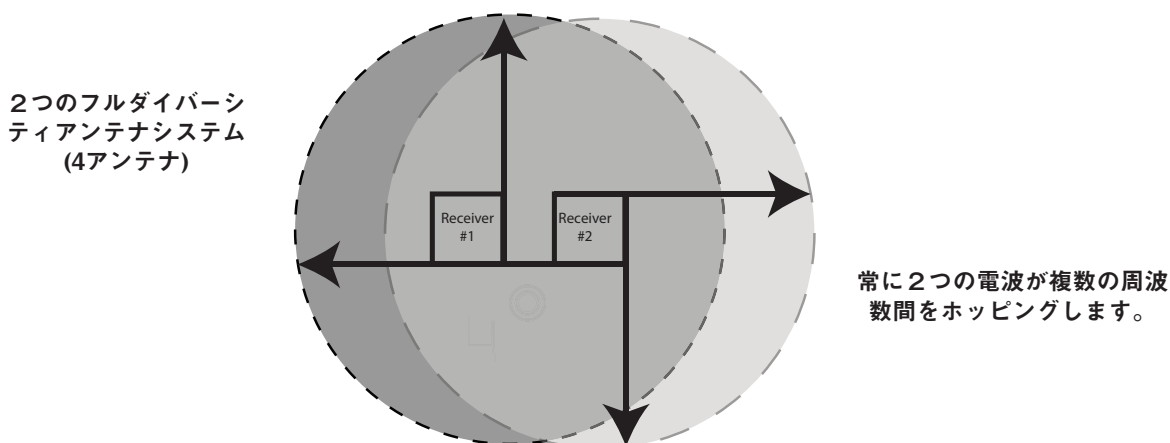
アップデートが全て完了するまではケーブルを抜いたり、Relayの電源をオフにするなどの変更は絶対に行わないでください。

最適な運用方法と接続例

この章では、Line 6 Relay[®]レシーバーとトランスミッターの最適なワイヤレスの運用方法と接続例をご紹介します。Relay G70/G75レシーバーを何も遮る物がない見通しの良い状態に設置することが非常に重要です。つまりレシーバーとトランスミッターの間に電波を遮る物がなければ最適な伝送距離や受信状態でご使用になれるということです。特に金属のハウジング筐体(完全に密閉された金属製のラック)や近接する金属製のもの(高さのあるエフェクターなど)はRelayレシーバーへのワイヤレス信号をブロックしてしまうことがあります。WiFiやインイヤーモニターシステムなどの他のワイヤレス機器がレシーバーに近すぎる場合にもRelayシステムを妨害することがあります。

クアッド・インターナル・アンテナ・アレイ

Relay G70/G75レシーバーはクアッド・インターナル・アンテナ・アレイ(4つの内蔵アンテナ)を搭載した初のワイヤレスシステムです。簡単に言うと、Line 6のRFエンジニアチームが威信をかけて念入りにチューニングした非常に高品位な正確な4本の内蔵アンテナ、さらに2つの完璧なレシーバーを搭載しているということです。両レシーバーの大きさ、素材、ディスプレイの位置やインプット/アウトプットジャックまで、全てのレイアウトはワイヤレスの受信状態が最適になるように専門的に計算され設計されています。



より専門的に知らないと気が済まない方のために(他の方はお気軽に次の項に進んでください。)、クアッド・インターナル・アンテナ・アレイは、100%冗長化するために、Line 6ワイヤレス・スペクトラム全体を常時監視しながらキャプチャーする2つの完璧なレシーバーで構成されています。各レシーバーはLine 6のエンジニアチームが設計した360° 均一に受信可能な2つの専用のアンテナを持っています。つまり、アンテナシステム(2つのレシーバー)だけでなくアンテナペア間でもダイバーシティを実現しているのです。

電波の干渉要因

全てのワイヤレスユーザーは電波の干渉やドロップアウトなしに、ワイヤレスシステムのもたらす自由を楽しみたいと思うはずですが、Relay G70/G75はLine 6の第5世代のワイヤレステクノロジーで、最も進んだドロップアウトプロテクションを提供します。

- 隣接するチャンネルパワーに対する高度な電波受信保護機能
- 業界最高レベルのニア/ファーにおけるパフォーマンス
- 受信範囲を最大化する4つの内蔵アンテナシステム

- 常に3つの周波数からオーディオ信号をキャプチャーしている2つのレシーバー(クアッド・インターナル・アンテナ・アレイ)
- 衝撃に強いトランスミッターの電池収納

残念ながら、どんなワイヤレスシステムにおいても、100%エラーが起きないという保証はできません。ワイヤレス・システムは、距離が離れすぎたり他の電波の干渉で信号がマスキングされることで受信状態が悪くなると、正常に動作しません。しかし、Line 6のデジタルワイヤレステクノロジーを使えば、オーディオ信号に外部からノイズが混入することはありませんし、データエラーによってクリップやノイズ音が発生することはありません。トランスミッターが電波を受信できない状態になると、その問題の原因（範囲外、過剰な干渉、電池切れ等）に関わらず、単にオーディオ信号がミュートされます。

使用中にこうしたミュートが起きる可能性を最小限にするためには、サウンドチェックなどの間に演奏する様々な状況を再現しながら、電波の受信状況をチェックする”ウォークテスト”を行うことをお勧めします。もし、演奏する範囲でオーディオ信号が途切れないならセッティングは問題ありません。演奏する範囲内で音が途切れるようなら他の電波を送信する機器がワイヤレス信号と干渉している可能性があります。以下に、こうした問題を最小限にするためのお勧めの方法をご紹介します。

金属による障害：レシーバーの両サイド(底面から2cm)のアンテナに隣接する金属製の物が無いことを確認してください。最低でも5cmは間隔を開けてください。

他のトランスミッター：もし突然著しく使用範囲が狭くなった場合、使用しているトランスミッターやレシーバーの他に電波を発信するものがないかチェックしてください。通常トランスミッターはペアリングしているレシーバーの近くに電波を発するものがあるのは好ましくありません。状況によっては、お互いが妨害電波になってしまいます。これによってプレイヤーの使用できる範囲は非常に狭くなってしまいます。これはレシーバーの近くに複数のトランスミッターがある場合に起こります。Line 6の第5世代ワイヤレステクノロジーは他のワイヤレスシステムと比べてこうした状況への対応力に優れていますが、この状況を避けることで最適な運用を実現します。

インイヤーマニターシステム(以下IEM)のトランスミッター：IEMのトランスミッターアンテナをRelayのレシーバーから最低でも3mは遠ざけてください。IEMシステムはライブパフォーマンスにおいてかなり一般的になってきました。IEMはステージ上のボリューム調整の面等で非常に便利ですが、間違った使い方をするとワイヤレストランスミッターボディパックとの間で干渉することがあります。

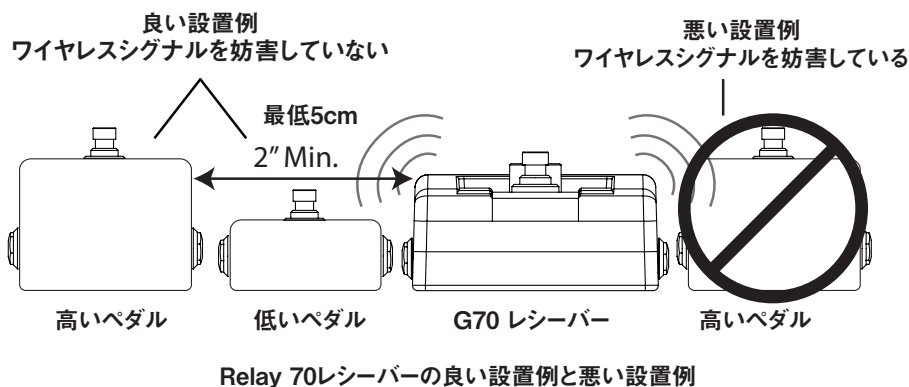
Relayワイヤレスギターシステムの電池駆動のボディパックからは、通常約10mW(1Wの100分の1)の低い出力で電波を送信しています。出力が小さいということは電池の使用時間を延ばすだけでなく、ステージ上の複数のトランスミッター間の干渉を最小限にするという2つのメリットがあります。しかし通常ラックマウントされ主にAC電源に接続されているIEMトランスミッターは数ワットで出力します。これはRelayボディパックトランスミッターの数倍のパワーになり得るのです。もしIEMアンテナがRelayレシーバーに近すぎる場合は、シグナルをブロックしてしまい、ワイヤレスシステムの使用範囲を著しく狭める可能性があります。

WiFi：当然のことながら、WiFiはライブ時において非常に重要な要素になります。WiFiと2.4GHz デジタルワイヤレスを同時に同じ場所で確実に使用するために確認すべきポイントをご紹介します。

- 可能であれば、使用しているWiFi機器を5GHz帯で使用するよう設定してください。(特にWiFi機器を自分で持ち込む場合)
- Relayレシーバーは、トランスミッターを使用する場所がWiFiホットスポットよりも近くなる場所に設置してください
- ノートPCやミキサーのリモートなどで使用するWiFi機器をRelayレシーバーより最低でも2m遠ざけてください。
- 屋外のステージなどでは屋内のスペースより使用範囲が狭くなることがあります。できる限りパフォーマンスを行う場所に近いところにRelayレシーバーを設置して下さい
- 内蔵のRFオートスキャン機能を使用することでどんな環境でも最適なチャンネルが選択できます。"P.5-9オートスキャン機能を使用したトランスミッターの追加方法"参照。

G70のペダルボードへの設置について

上記でご説明した通り、Relay G70とエフェクターを隣接して設置する場合、G70のシグナルを遮らないように金属製のもの（例えば高さのあるエフェクターなど）を近づけすぎないようにしてください。Relayトランスミッターを装着している際にレシーバーとの見通しを良くする意味でもベストな方法です。



ペダルボードのプランを考える際にA-3"Relay G70レシーバーの寸法"を参照してください。

各トランスミッターのチャンネル設定

もう一つの最適な実践方法は、同時に同じステージで演奏する場合は、全てのプレイヤーがそれぞれ固有のワイヤレス・チャンネルを使用することです。Relay G70/G75はシーンを使用することでトランスミッターやギターの変更が簡単に行えます。(P.5-9"レシーバーへのトランスミッターの追加"参照)

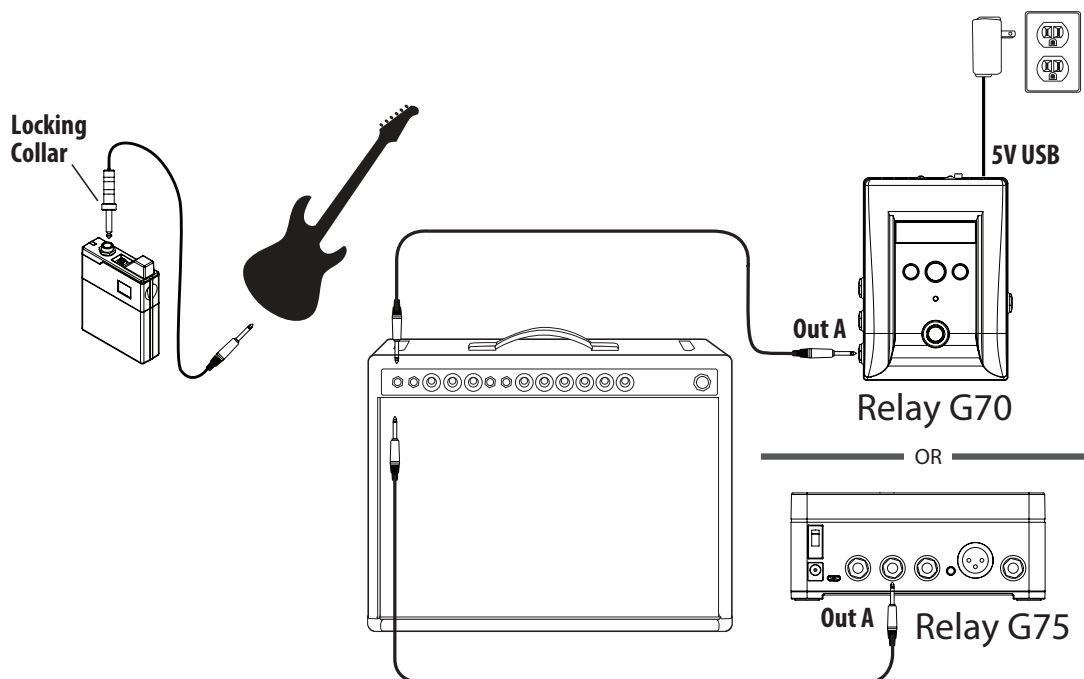
しかしながら、複数のトランスミッターを同時に同じチャンネルで電源がOnになっている場合、お互いが干渉してしまい、ドロップアウトや使用範囲が狭くなる原因となることがあります。

Relay G70/G75は非常に早い接続時間（1秒未満）を実現しており、一時的に使用していない楽器のトランスミッターの電源をOffにしても、すぐに復旧させることができます。電源のOn/Offを操作したり、あるいは楽器ごとに別の専用のトランスミッターを使用することで、同時により多くのパフォーマーが空きチャンネルをシェアできるようになります。Relay G70/G75は業界をトップクラスの最大16チャンネルから選択でき、同時により多くのプレイヤーが使用することができます。

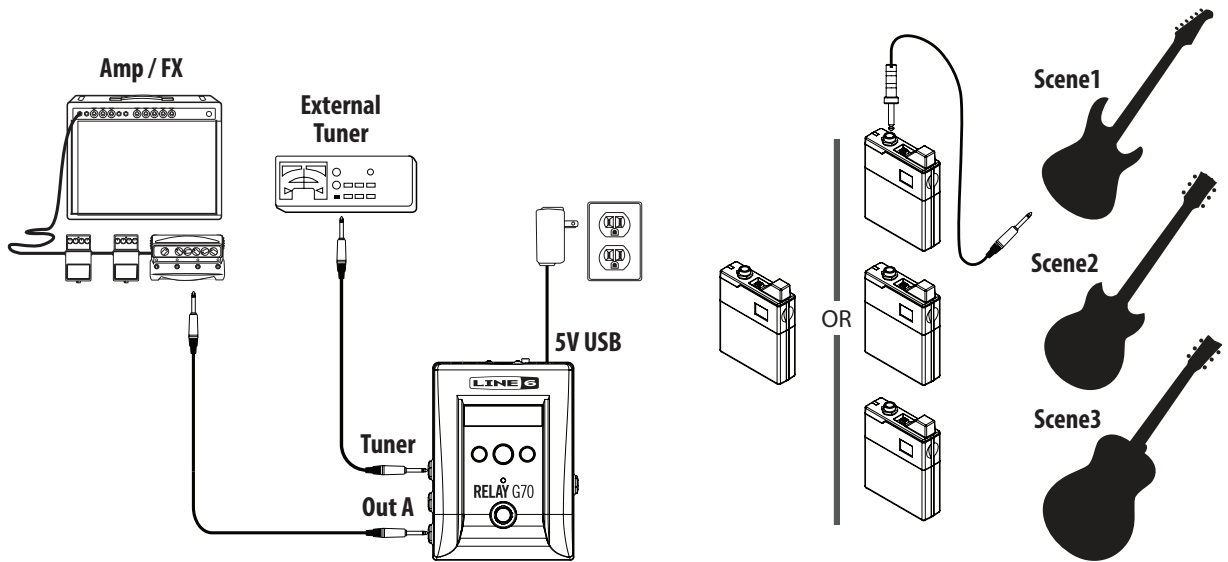
接続例

異なる楽器やアウトプット設定を使用した場合の接続例や1つ、もしくは複数のトランスミッター設定を使用した例をご紹介します。

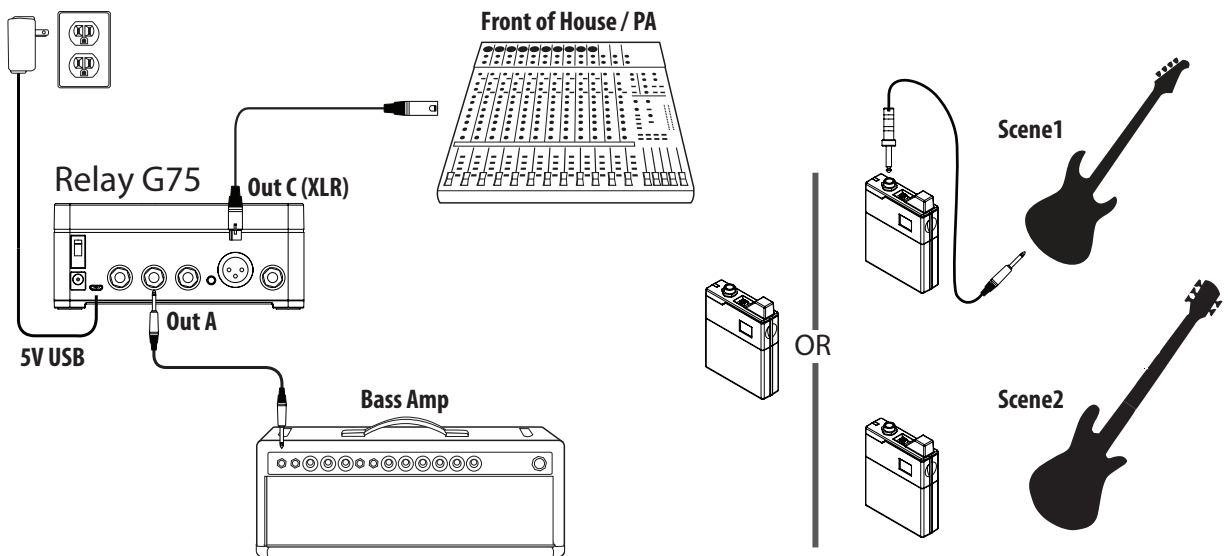
基本的なG70/75の1つの楽器での使用例



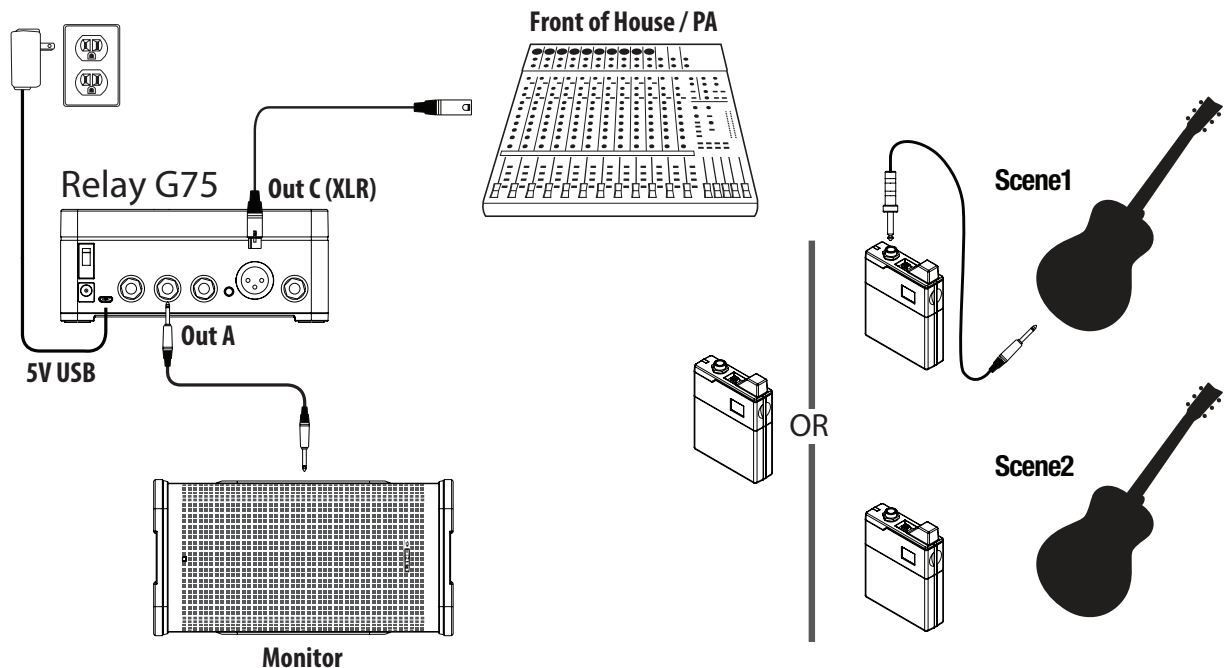
G70 エレクトリックギター + アコースティックギター接続



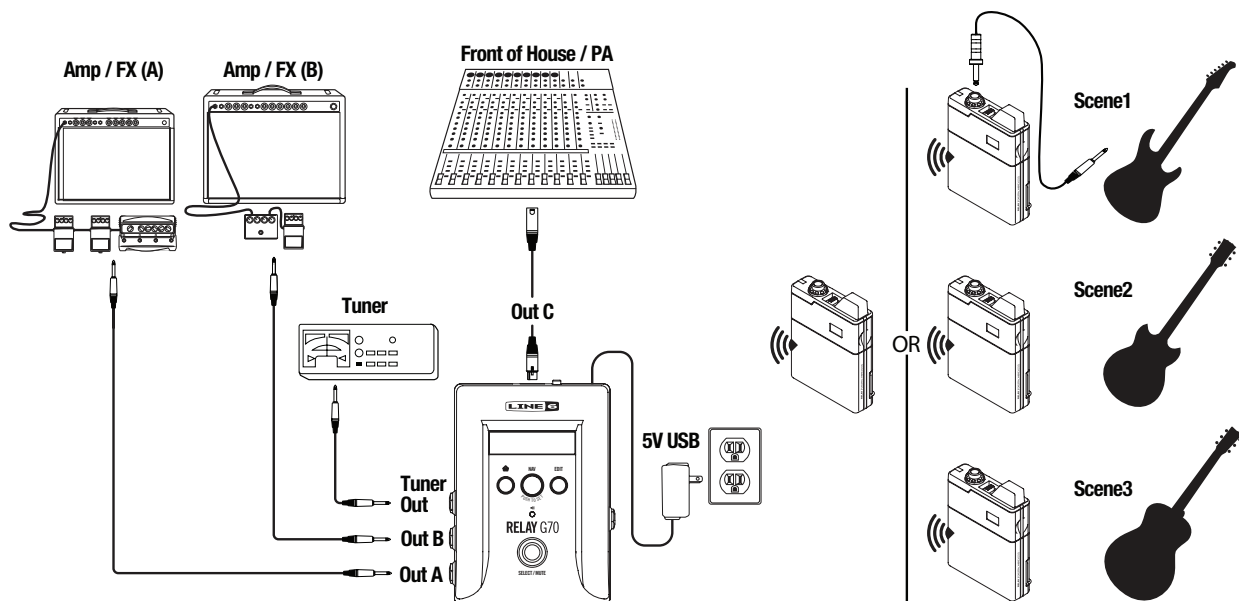
G75 ベースギターからアンプ + PAに接続



G70 アコースティックギターを直接にPA + パワードモニターに接続



G70 エレクトリックギターを2台のアンプ & アコースティックギターをPAに接続



さらに情報が必要な場合

さらに情報をお探しの場合は下記を参照してください。

関連資料

Line 6 Relayワイヤレスシステムに関する資料はLine 6 Japanのワイヤレス商品ページからアクセスできます。

<http://line6.jp/products/relay/resource.html>

ソフトウェアダウンロード

最新のドライバやソフトウェアはLine 6 Japanのダウンロードページからご確認ください。

<http://jp.line6.com/software/>

Note: 無償提供している最新のLine 6 Updater Utilityをダウンロード、インストールしたい場合は、P5-15”ファームウェアアップデートのインストール”を参照してください。

サポート

Line 6 Japanのサポートページにアクセスして、よくある質問や各種サポート情報をご確認ください。

<http://line6.jp/support/>

製品仕様

Line 6 RELAY G70/75システムのレシーバーとTB516 G トランスミッターの仕様表です。

Relay G70 & G75 仕様

RELAY G70/G75 - 仕様	
伝送方式	デジタル
周波数帯	2.4GHz ISM
無線モード	周波数ホッピング
レイテンシー - トランスミッター インプットからレシーバーアウト プット	1.5ms未満
ペアリングまでの時間	1秒未満
周波数特性	10Hz - 20kHz, ± 1 dB
ダイナミックレンジ	>120dB
THD+ノイズ	< 0.04% (1kHz @ -10dBFS)
システムゲイン	0dB ノミナル,-18dBから+12dBまでセッティングごと に可変
極性	TB516Gのギターインプットにかかる+電圧は、レシー バーのA,B,Cの各アウトプットに正の電圧を流します
最大伝送距離	60m*
チャンネル数	16
動作温度	0° C to 50° C
保管温度	-10° C to 50° C

*実際の伝送距離は環境や電波の妨害や反射、吸収などによって変化します。

Relay TB516 G トランスミッター仕様

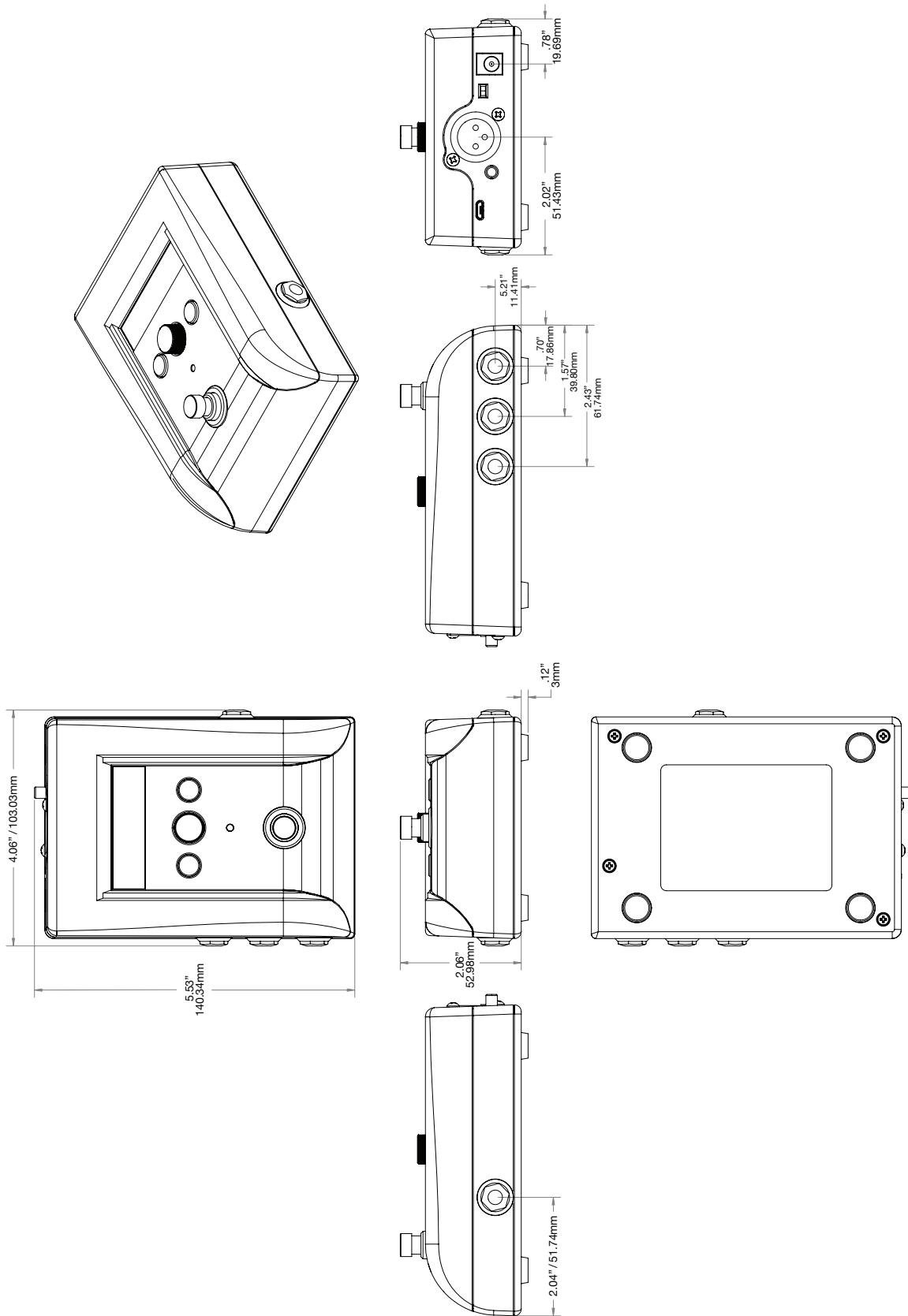
RELAY TB516 G - トランスミッター仕様	
インプット	¼ インチ フォンプラグ(TS)
周波数帯	2.4GHz ISM
インプットインピーダンス	1M Ω
RF出力	10mW E.I.R.P. Max
最大インプットレベル	5.5Vpp
バッテリー駆動時間	> 8時間 (単三アルカリ電池 2本使用時)
スタンバイ時間	> 60時間 (単三アルカリ電池 2本をスリ ープモードで使用時)
チャンネル数	16

Relay G70 & G75 レシーバー仕様

RELAY G70/G75 - SPECIFICATIONS	
ペアリングまでの時間	1 秒未満
周波数特性	10-20kHz, +1dB / -3dB
ダイナミックレンジ	> 120 dB A weighted
伝送距離	60m未満*
レシーバーゲイン	0dB ノミナル, -18dBから+12dBまでセッティングごとに可変
AUXインプット最大入力レベル	5.5Vpp
Auxインプットインピーダンス	1.3MΩ
アウトプットインピーダンスe	アウトプットA&B: 100Ω
	アウトプットC(XLR): 300Ω
AuxインプットからアウトプットまでのSN比	120dB未満
USB	Micro USB 2
電力	USB: 3Watts (585mA)
	9VDC (センター・マイナス): 3Watts (350mA)

*実際の伝送距離は環境や電波の干渉や反射、吸収などの環境要因によって変化します。

Relay G70 レシーバー寸法



Relay G75 レシーバー寸法

